

# 地域再生

## ふるさとをふるさとの人の手で。

現在急ピッチで進められている応急仮設住宅の建設。  
 その中でもひときわ目立つのが木造の仮設住宅です。  
 エコ・ビレッジと想いを同じくする地域の工務店さんや、  
 全建総連さんの大工さん、200名以上がふるさとのために頑張っています。  
 中には避難所から、県内4ヵ所の私共の現場に向かう大工さんもいます。  
 「地域再生 ふるさとをふるさとの人の手で。」  
 今、エコ・ビレッジを中心として新たな取り組みが始まっています。

■撮影場所/いわきニュータウン



▲職人の手により、ていねいな仕事を進めています

被災されたふるさとの人たちのために、1日でも早く住み心地の良い家を頑張って造っています。



▲ウール断熱材でしっかりとした断熱工事も行っています



▲青木宏之会長(左)と和田正光本部長(右) いわきニュータウン、仮設現場にて

JBN(全建連・工務店サポートセンター)が  
 いわきの応急仮設住宅を視察

岩手、宮城、福島各県において地域材を活用した木造応急仮設住宅の建設を行い、地域の雇用確保、仕事創出を目的として、「応急仮設木造住宅建設協議会」が4月に結成されました。  
 会長にはJBN理事長で青木宏之、副会長には熊本から職人5名も加わり現場を訪れました。青木会長は仕上がりゆく仮設住宅を眺めながら「資材不足の中で、地域産材を製材し、大工さんの手によってすぐに建てられる仕様を設計しました。気密・断熱・結露対策も施した建物なので、被災者の方にも安心して住んでいただくとお話しくださいました。」

7月4日、青木会長をはじめとする委員14名と千葉、埼玉、熊本からの職人5名も加わり現場を訪れました。青木会長は仕上がりゆく仮設住宅を眺めながら「資材不足の中で、地域産材を製材し、大工さんの手によってすぐに建てられる仕様を設計しました。気密・断熱・結露対策も施した建物なので、被災者の方にも安心して住んでいただくとお話しくださいました。」

木の温もりを感じる、地域に根付いた仮設住宅  
 エコビレッジのこれまでの歩み。(6月末まで)



▲JBNのメンバーが視察に

※プレ協での仮設住宅建設

エコ・ビレッジグループ

エコ・ビレッジ 株式会社

しっかりつくてながく大切に住む エコ・木の家

ISO 9001 認証取得  
 木の会社

ウールな木の家

ECO-VILLAGE

株式会社 エコ・ビレッジ

いわき市中央台飯野4丁目2-4  
 いわきニュータウンセンタービル2F  
 TEL 0246-28-0111(代)  
 FAX 0246-28-0116  
 E-mail eco.v@eco-vnet.com

www.eco-vnet.com

きちんとまもってながく大切に住む エコ・木の家

ISO 9001 認証取得

すまい・まもり

株式会社 すまい・まもり

いわき市鹿島町久保字反町20-2  
 TEL 0246-58-8100  
 FAX 0246-58-8103  
 E-mail sumai.m@eco-vnet.com

www.sumai-mamori.com